



右ハ山寺道
左ハかうやへ

二口峠 追分石

磐司・磐三郎伝説の山々

その昔、二口山塊をすみかとして、飛ぶが如く山を踏み越え、水をも渡ったと云われるマタギの祖 磐司・磐三郎。伝道の行脚を続けていた慈覚大師円仁に諭され、のちに山の神となって祀られた怪異な兄弟であったとも伝わる。

彼らが今にも出てきそうな山々、秋保の大自然が山人を誘う。二口峠から糸岳、大東岳から磐司岩、白糸の滝…………。

厳しくも癒しの絶景を、ほんの少しだけご案内しましょう。

秋保みっぺ

山歩き

大磐司・望洋

いってみっぺ

秋保 山歩き 大磐司・望洋

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

深山から望む大洋 望洋平から風鳴平へ
天空を摩する大連壁 竜ヶ嶺 大磐司
そして 清冽 白糸の滝を巡る

掲載されている情報は、平成30年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.17



白糸の滝上流部

風の洞から二口峠へ

野尻から二口峠を越える街道は、古くから仙台平野と山形を東西に最短で結ぶ道でした。

この街道を、馬の背に荷駄を積んで行き来していた時代、“風の洞”まで来ると、山の頂の方から人々を怯えさせる竜の声が聞こえてきたと云います。この場所は、真夏でも涼しい風が吹き抜け、一年のうち風が止むのは夏の土用の三日間だけとか。

ここから今回の旅の基点、二口峠に向かいます。山形県境にほど近いこの峠の名の謂れは、かつてこの付近で山伏峠、清水峠の二手に分かれていたことから。現在その二つの古い道は、草木深く人々の記憶からも遠ざかりつつあります。

さて、耳と心を澄まして、奥秋保の道へ歩を進めます。

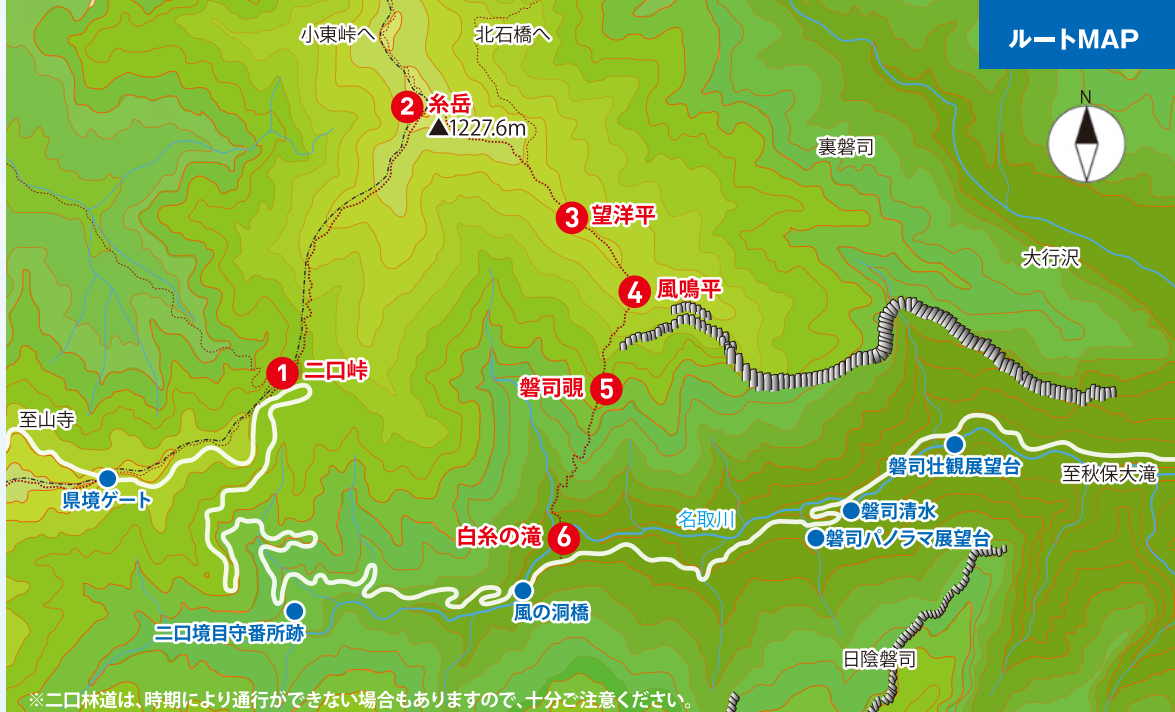
山歩き

大磐司・望洋

1 二口峠 標高 約900m



さて、ここから出発しよう。



2 糸岳 標高 1227.6m



昔、二口街道を行きかう旅人を畏れさせた竜は、糸岳に棲んでいたとも云われている。街道の至る所から見る事ができる円錐形の美しい山容はあくまで優しく、この様子からは恐ろしい竜の話をにわかに信じることはできないが、旅の始まりに、二口峠からいきなり登り続ける山頂への道は、決して優しくない。



6 白糸の滝 滝口の標高 約730m



ある時は糸のように、またある時は大きな布を広げたように、巨大な一枚岩の上を滑る清冽な流れ。春夏秋冬、季節の移ろいとともにそれぞれに違った風情で楽しませてくれる。

5 大磐司(西磐司) 標高 約1,000m

数ある秋保自慢の中でも屈指の一つ、国指定名勝「磐司」。長さ約3km、高さ200mに及ぼんとする表磐司の最高点が大磐司(西磐司)である。悠久の時をかけて形づくられた造形、二口峡谷から立ち上がるその雄々しい姿を間近に見たら……言葉は無い。



3 望洋平から 標高 約1,100m



糸岳山頂から東進、秋保の主峰大東岳を北に見ながら、やがて北石橋・カケス沢への分岐を過ぎ、ふと気が付くと、はるか彼方数十キロ先に太平洋を望む、文字通り望洋平に立っていた。

4 風鳴平から 標高 約1,000m



望洋平から約350mほど歩くと大磐司の横顔が見えてくる。歩いてきた道がここから白糸の滝の方に向かって落ちていく。ここは風鳴平と呼ばれる所。南方V字型に切れ込んだ谷に視線を落とせば、風の洞を吹き抜ける風の道が見えるかもしれない。

各ポイント間のおおよその距離

